

能登半島北部の地震活動と地震テクトニクス

平松 良浩 (金沢大学)

ポイント

- 能登半島北部珠洲市周辺での地震活動の活発化は2018年6月頃から始まり、2021年以降は地震活動は4つの領域で活発化している。有感地震(マグニチュードが相対的に大きな地震)の多発は2021年5月以降。
- 地震のメカニズムは南東に傾斜した断層面での逆断層型が支配的である。
- 2020年12月頃からの地震活動の活発化は、この地域での局所的な非正常地殻変動が観測された時期と同じであり、この非正常地殻変動源による応力変化により地震活動の活発化がもたらされたと考えられる。
- 能登半島北部では歴史的にマグニチュード6~7程度の地震が発生しており、またマグニチュード7程度の地震を起こしうる活断層も存在することから、現時点での最大地震(M5.1)をこえる規模の地震の発生について注意する必要がある。

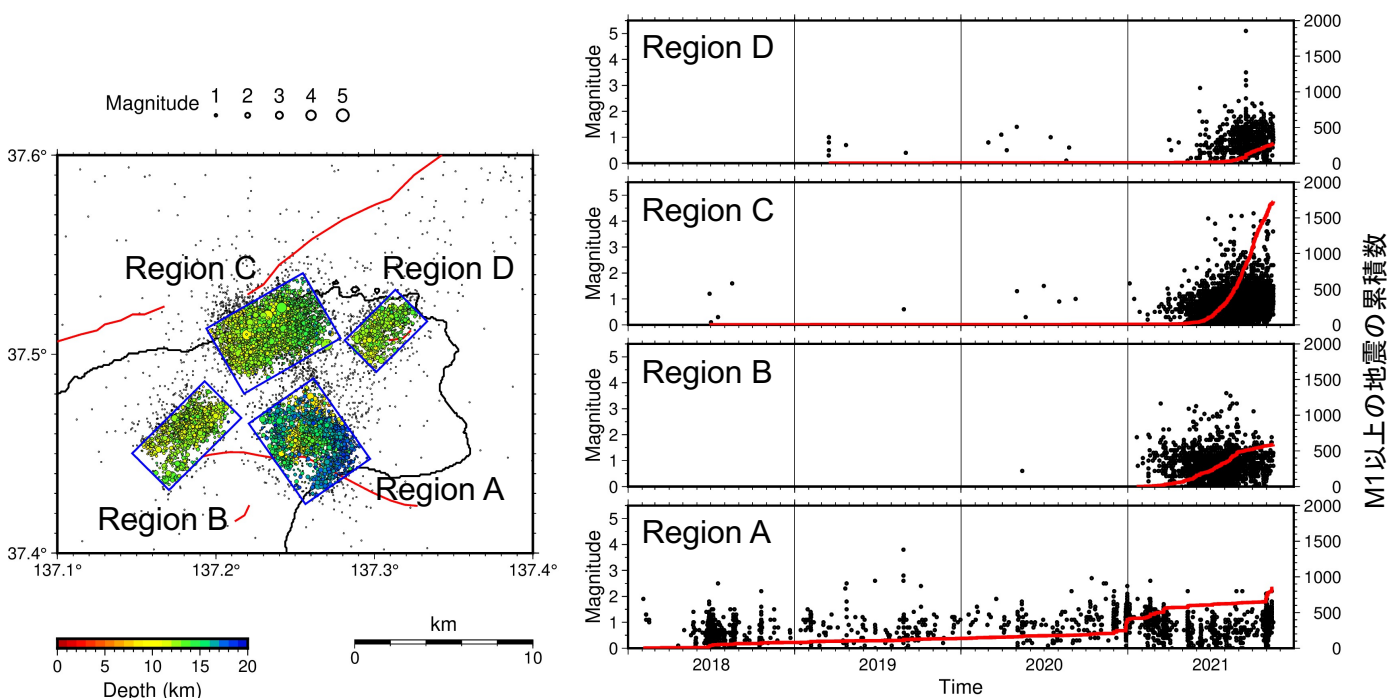


図1. 能登半島北部珠洲市周辺での地震活動。4つの領域で地震活動が顕著であり、Region Dで最大地震(M5.1)が発生した(2021年11月17日時点)。

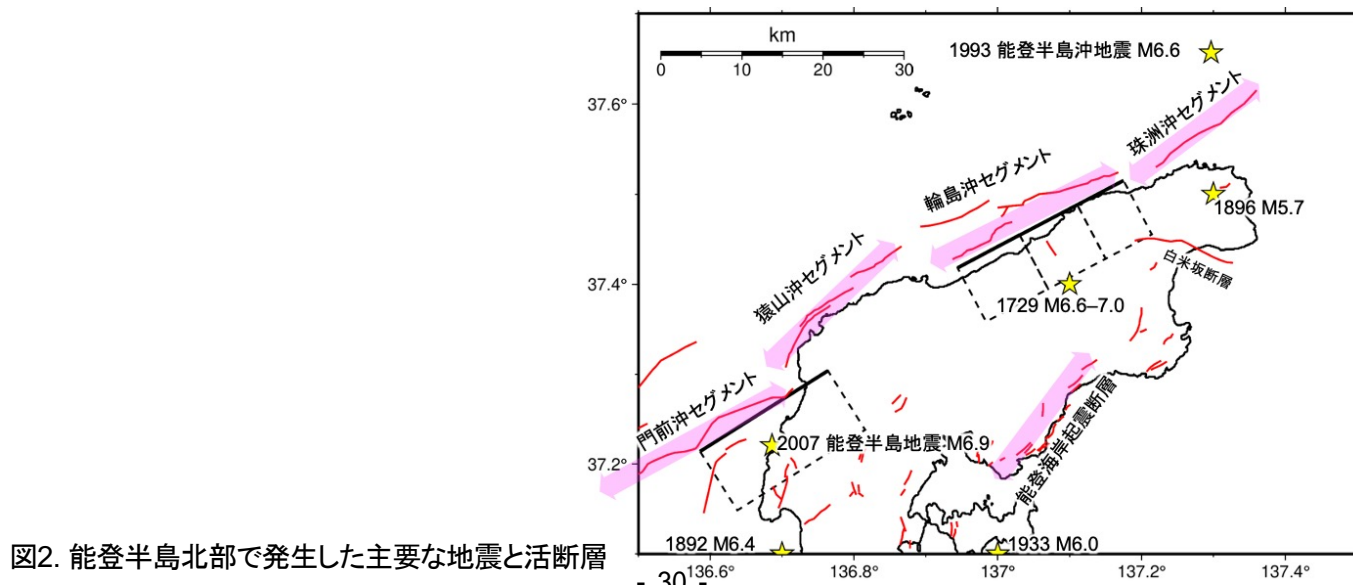


図2. 能登半島北部で発生した主要な地震と活断層